

沼山峠

沼山峠は会津沼田街道で最も標高の高い峠のひとつで、海拔 1,785 メートルにあります。

商人たちはこの峠を越えて大江湿原と尾瀬沼に到達し、そこで隣接する沼田地方（現在の群馬県）の人々と商品の売買や交換を行っていました。峠はまた、狩猟、漁業、伐採の場所になっていました。

沼山峠の休憩所からは大江湿原を見渡すことができます。江戸時代（1603-1867）

の記録によると、周囲の山林を山火事が襲ったため、この峠は「焼山峠」（文字通り“焼けた山の峠”）と呼ばれるようになりました。火に焼かれた山腹からは、大江湿原、尾瀬沼、そして遠くに燧ヶ岳（2,356m）のパノラマを見ることができました。山火事から数百年後、シラビソの原生林が発達し、かつての湖や山の眺望が遮られるようになりました。この森は保全地域に指定されています。